

僅ニ四十年ニシテ既ニ我帝國ハ武威ヲ海外ニ伸張シ
先進強國ト比肩スルコトヲ得タノテアル
余併戰後暫クニシテ國民ノ間ニ憂フヘキ氣風が生
レテ来タ、戰勝國民ニ有勝ナク矯慢弛緩ノ態度
デアル、國民ハ強露ニ勝ツヤ斯ク其ノ兇ノ紐ヲシメ
トスルヲ忘レカケタ、古來強國ノ滅亡ノ兆皆此クノ如シ
先帝深ク其兆ヲ憂ヒ給ヒ、成申ノ詔書ヲ下シ忠賢
勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ステ荒怠ノ穢ヲ去シ給フタ
國民之ヲ誅シテ恐懼措ク所ヲ知ラス爾來趨向ハ空
ニ道德ノ尊重國民精神振作ノ風復起リ効果大ニ
現レテ帝國ハ發展シ續クセントシタ
明治四十五年先帝崩ニ給フヤ我國ノ前途漸ク多事ヲ
加フ

先帝崩ニ給フヤ一英字新聞ハ「日本ハ之ヨリ下リ阪ニナ
ラシトノ論説ヲ書イタ、當時ノ我國ノ状況ヲ直視セル者
ハ如斯觀測ヲ責ムル以前ニ我國ノ内政特ニ其財政
状態ノ甚ク危峻ニ瀕シテ居タコト並ニ此ノ間ニ處ンテ
朝野ノ先覺者ガ帝國ノ為メニ如何ニ善處スベキカラ
苦心セルカラ知悉シテ居ルデアラウ、
此時幸キ不幸キカ歐洲大戦ガ勃発シタ、歐洲ノ角
ニ起ツタ大戦ガ當時対内的ニ煩悶セル我國ニ齎ラシ
タモノハ一言ニシテ言ハハ初ノ幸福ニシテ後不幸デアツ
タ暫ラテ此ノ問題ヲ考ヘテ見ル、
大戦起ルヤ交戰諸國ハ軍需品ノ必要勞働者並兵
ノミナラス從來ノ輸出販露杜絶ノ為ニ戰爭ノ中心カラ
ハ離レ去ル我國及遲レテ来戰セル米國ノ二國ハ必然的